

「当事者として感じ、語らう」  
～悠久の都・ならにて～



2019年6月21日(金)～23日(日)



Photo by (c)Tomo.Yun  
<http://www.yunphoto.net>

6月21日(金)

エクスカージョン「悠久の都で自分探しと出会いの旅」

悠久の都 なら をゆったりと探索しましょう

(障がい者の皆さまへのサポートあり)

6月22日(土)

基調講演「ささえあいから生まれる『苦悩の語り』と価値認識の変容」

能楽公演「修羅能の世界」(解説もあります)

シンポジウム「それぞれの当事者性」

6月23日(日)

特別講演「ならにて健康障害と共に生きる当事者をささえる」

わかちあいワークショップ「当事者としてともに感じ、語らう」

わかちあいワークショップ 共有

「当事者とは誰なのか？」

すべての人々が、何らかの当事者と言えるのではないかと考えました。病気や障がいとともに生活している方、家族の療養を支えている方…医療職・福祉職などの職業に携わる方…すべての方々が、何かと向きあい、ひたむきに今を生きておられると思います。そんな一人ひとりが、ならに集い、当事者として健康、病気や障がい、生きることなどについて、日ごろ感じていることを語りあいませんか。

学術大会実行委員 一同より

大会長 梓川一(東大阪大学)

第34回 日本保健医療行動科学会学術大会実行委員会事務局

Email: 34jahbs@gmail.com

〒574-0001 大東市学園町 6-45 四條畷学園大学内

事務局長 佐藤 都也子